

編集後記

建築物やその付帯する設備において、社会から安全性や信頼性が求められている中、人に優しい技術開発は急速な進歩で発展してきているようです。今号の技術開発レポートでは、東芝の伊東様、森下様により「エレベータの開発動向」が紹介されています。我々が日常使用している昇降機ですが、システムの高速化や安定性など、高い水準の技術には目を見張るばかりです。市場からは、単に設置コストだけではなく、安全性を重視し保守性を考慮したシステムの要求がなされている昨今、ご紹介の高速でありながら心地良さなどの観点を重視した安心な設備について、更なる研究開発の進展を期待したいところです。

また、今号では苫小牧工業高等専門学校の上田教授、堀助教授による「研究グループ紹介」をいただいております。たいへん興味深い研究や特徴のある教育内容が披露されています。更に、活動広報記事として、「平成 19 年産業応用部門大会」の開催案内と論文募集について紹介されていま

す。

11 月号の論文誌では「ヒューマンファクタとマニファクチュアリング」と題して特集を予定していますが、今号に松下電器 姉崎様により特集予告記事を執筆いただきました。人と機械がインタフェースを介して、快適で安全なシステムへのヒューマンファクタ技術適用に関する論文の特集号について予告されています。発刊が待ち遠しいところです。

この編集後記を書いている今、PESC 2006 のお土産として沢山買い込んだ韓国海苔を片手に作業をしています。会議は盛大に開催され、多数の論文が発表されました。次号のニューズレターでは、PESC 2006 の詳細な報告がされる予定ですので、ご期待下さい。

最後に、ご多忙中にもかかわらず、原稿を執筆していただいた皆様、ならびに担当委員の皆様に、厚く御礼申し上げます。

エディタ 西村 和則 (中国電気保安協会)

【11 月号特集「ヒューマンファクターとマニファクチュアリング」予告】

姉崎 隆 (松下電器産業(株))

生産システムのあり方が、従来の自動化追求から、ネットワーク化・トータルシステム化へと進展を続け、そしてより社会に密着し、消費者のデザイン過程への参加やリサイクル制度などを通して、製品のトータルライフサイクルの実現など、個々人の生活にまで直接入り込んでくるようになってきています。このような中で、生産や製品が、個々人の個性や嗜好、快適さ、安全性など、ヒューマンファクターを考慮しなければならない局面が増大しています。また、セル生産のように、生産システム自体においてもヒューマンファクターが重視されるようになってきました。

そのような動向を背景に、本特集では、生産を中心に、その設計、製造、流通、などのいろいろな段階でのヒューマンファクターのかかわり方に焦点を当て、関係のあり方を考えます。具体的には、IMS (Intelligent Manufacturing Systems) プログラムにおける HUTOP (Human Sensory Factors for Total Product Life Cycle) プロジェクトにおいて取り組んだ、下記項目に関する論文を取り上げて特集致します。

- ・デザインにおけるヒューマンインタフェースに関する研究
- ・知識・ノウハウにフォーカスした設計品質ソリューション統合化システムの研究
- ・生産者のヒューマンファクター獲得に関する研究
- ・人・機械協調におけるヒューマンインタフェースに関する研究
- ・ヒューマンフレンドリな生産のモデルシステムに関する研究